

# 英語科研究実践



# 英語科研究構想

<学校の教育目標>

創造・自主・協同

<研究内容>

## 研究内容1 バズ学習を位置付けた指導計画の立案

- ◇聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した、効果的なバズの方法・場設定の工夫をする。
  - ・理解バズや補強バズを中心にして、学習内容ははっきりさせたり、覚えたり、練習したりできるように、バズを効果的に位置付ける。

## 研究内容2 必然性のあるバズ学習のあり方の究明

- ◇積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせていくために、バズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。
  - ・生徒の個性や願いが発揮できる課題や、インフォメーションギャップがあり、話してみたい聞いてみたいという意欲を喚起する課題を設定する。

## 研究内容3 バズ学習を支える学び方の定着

- ◇バズ学習を成立させるために、バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。
  - ・バズを支える基本的な対話表現を身につけさせるために、クラスルームイングリッシュを意図的に使っていく。
  - ・聞き手や話し手を意識した、英語での基本的な応答について指導していく。
  - ・フローチャートを使ってバズの基本的な進め方を指導していく。

<研究仮説>

互いの考えや力を発揮し合い、高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ、教師の適切な指導・援助を行えば、生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

<全校研究主題>

## 個と集団を鍛えるバズ学習の究明

基礎・基本の確実な定着を目指して

<英語科学習で願う姿>

- ◎自分の考えや思いを積極的にコミュニケーションしようとする姿。
- ◎仲間の表現のよさを取り入れ、より豊かなコミュニケーションをしようとする姿。

<生徒の実態>

- 英語を話すことに対する憧れを持ち、興味・関心を持つ生徒が多い。
- リーダーの指示に従い、和やかな雰囲気の中でバズを進めていくことができる班が多い。
- △文法の誤りを気にして、積極的にコミュニケーションしようとする態度が弱い。
- △自分と仲間の違いに気づき、よさを取り入れていこうとする態度が弱い。

# 英語科の研究実践

## 1 研究の目的

### (1) 願う生徒の姿

ある生徒の作文である。

私は教科の中で英語が一番好きです。成績はあまりいいほうではないですが、英語を話すことはとても楽しいです。ALTの先生が来校されたときはいつもわくわくしています。時間があれば、休み時間に職員室へ行って話をしようとしています。うまく話が伝わっているか不安になることもありますが、単語を並べて何とか話をしています。家族で外国へ旅行したときも、できるだけ外国の人に話し掛けようと思いました。スラスラ話すことはできなくても、自分の思っていることが伝わったときはすごくうれしかったです。

この文章の中には、英語科で願う生徒の姿のひとつ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が、端的に表れている。

英語科では願う生徒の姿として以下の2点を考えている。

- ・自分の考えや思いを積極的にコミュニケーションしようとする姿。
- ・仲間の表現のよさを取り入れ、より豊かなコミュニケーションをしようとする姿。

しかし、毎日の授業の中やALTが訪問したときの生徒の様子を見ると、このような姿ばかりではない。

話したり、書いたりする内容がはっきりしていれば、自分なりの表現を工夫しようとする積極的な姿が多く見られる。しかし、それを自分から意欲的に相手に伝えようとしたり、受けとめたりする姿勢はやや弱い面がある。

これらの原因として、文法的な誤りを気にしたり、自分の表現したいことを日本語から英語に置き換えようとしたりして、自分の表現に自信が持てないこと。また、自分と仲間の表現内容に大きな相違点がないので、コミュニケーションすることに対して意欲が持てないことのふたつを考えた。

### (2) 英語科における仮説

英語は言葉である。言葉は、基本的にはコミュニケーションのためにあり、コミュニケーションを目指さない言葉の学習はない。英語は、相手に自分の意思を伝えたり相手の言っていることや書いていることが理解できたりして、情報が伝わったときにその機能を果たすことができる。英語学習の本来の喜びは、英語を使って自分の身の回りのことや考えたことを相手に伝えたり、相手の言っていることを理解したりしたとき、またはその能力を身につけていく学習過程において生まれるものである。

また、一人ではできなかったことも、仲間の中で練習したり教えあったりしてできるようになることもある。

バズ学習を効果的に取り入れ、教師が適切な援助を行えば、生徒一人一人が個性を発揮し、相互に励まし合い、認め合いながら学習することを通して、人間関係を深めながら、英語学習に対する興味関心を高め、一人一人の力を伸ばしていくことができると考えた。

そこで、「個人はよりよき集団を形成し、集団はよりよき個人を形成する。」というバズ学習の理念を基盤に、「集団と個を鍛えるバズ学習の究明」を研究主題として、以下の3つの研究内容で実践をしてきた。

## 研究内容1

### バス学習を位置づけた指導計画の立案

単元を見通した指導計画を立案し、効果的なバズの方法・場の設定を工夫していけば、相互に励まし合い、認め合いながら学習することを通して人間関係を深めながら、信頼関係のある集団の中で、実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成することができる。

## 研究内容2

### 必然性のあるバス学習のあり方の究明

バス学習を通して生徒を変容させていくための手立てを究明していけば、積極的にコミュニケーションしようとする態度を身につけることができる。

## 研究内容3

### バス学習を支える学び方の定着

リーダー指導やバズの進め方など、基本的な授業のあり方を指導していけば、効果的なバズが進められるようになる。



## 2 研究内容

### (1)研究内容1

#### バス学習を位置づけた指導計画の立案

理解バズや補強バズを中心にした指導計画を立案する。

コミュニケーションとは、相手を意識した活動である。情報の発信者は自分の伝えたい内容をさまざまな手段を使って伝達しようとし、受信者は何とかそれを理解しようとする態度が必要である。このように、一方通行では成立しない活動であるため、相手を意識することができるバズを効果的に仕組むことは、英語科で願う姿に迫るために特に大切であると考えた。

また、日常的な会話や簡単な情報の交換などができるような実践的コミュニケーション能力の基礎を養うために、実際に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする言語活動を繰り返し行なうことが大切である。そこで、課題について仲間と意見を交流しながら深めていく探究バズよりも、学習した内容について繰り返し練習しながら身につけていく理解バズや補強バズを中心となるバズとして、指導計画を立案していく。

### (2)研究内容2

#### 必然性のあるバス学習のあり方の究明

生徒の個性や願いが発揮できる課題や、インフォメーションギャップがあり、話してみたい聞いてみたいという意欲を喚起する課題を設定する。

「必然性のあるバズ」とは、自分なりの表現が広がり、コミュニケーションしようとする意欲を喚起する課題に支えられていると考えた。つまり、生徒の願いや個性が発揮でき



る課題や、インフォメーションギャップがあり、生徒一人一人の話してみたい、聞いてみたいという課題を設定していく。

### (3)研究内容3

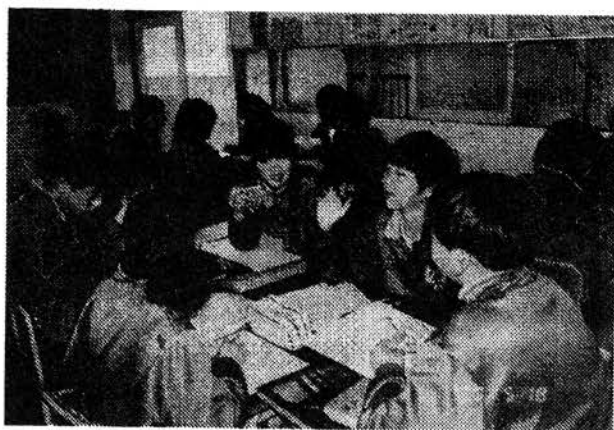
#### バス学習を支える学び方の定着

①バスを支える基本的な対話表現を身につけさせるために、クラスルームイングリッシュを意図的に使っていく。

授業の中で教師が積極的に英語を使って指示することで、聞き手や話し手を意識した、英語での基本的な応答を身につけさせたり、英語を使う雰囲気を作ったりしていく。

②フローチャートを使ってバスの基本的な進め方を指導していく。

バス学習の中でも相手を意識した活動を大切にしていきたい。そのために、相手の発言内容に反応することや、自分の発表の確認をできるだけ英語で行なえるようにする。バスの基本的な進め方をフローチャートを用いて班長を中心に指導していく。



## 3 研究実践

### (1)研究内容1

#### バス学習を位置づけた指導計画の立案

理解バスや補強バスを中心にした指導計画を立案する。

#### 実践例① 1年 Program 3 Hello, Friends.

本単元では、理解バスを中心に、内容理解の時間には補強バスを加えた指導計画を立案した。表現活動をおこなう前に、できるだけ多くの情報を得るため、例えば第4時では「日米の給食や掃除の様子の違い」について補強バスを位置づけた。まずは課題について教科書から読み取り、さらに知っていることを出し合って情報を増やし、表現活動につなげようと考えた。できるだけ多くの情報を得れば、表現活動の幅も広がり有効なバスとなると考えたからである。また、理解バスでは、自分の意見を発表したり班員の意見をまとめたりすることを主な目的とした。補強バスを行なった後なので、持っている情報は班員ほぼ同じだが、表現のしかたには違いがあるので、これがインフォメーションギャップとなり、意欲的にバスに参加することができると考えた。



## PROGRAM3 スクールライフ Hello, Friends.

《単元の課題》自分のことや学校のことを紹介しよう。

### 《学習計画表》

日付	学習内容	活動のめあて	バズの内容	感想
	基本文 WS(C)(D)	基本文を用いて文を作り、相手に質問したり答えたりしよう。	[理解バズ] 仲間のことを新聞にするために、インタビューをする。	
	§1 内容理解	エミリーがどんな女の子かを読み取ろう。	[補強バズ・理解バズ] エミリーについて知り、紹介カードを作る。	
	話す活動	自己紹介をして仲間に自分を知ってもらおう。	[理解バズ] 多くのこと知ってもらうように自己紹介をする。	
	§2,3 内容理解	エミリーの給食や掃除の体験について読み取ろう。	[補強バズ・理解バズ] 日米の学校生活の違いについて考える。	
	話す活動	アメリカの学校と比較しながら泉中学校の生活を紹介しよう。	[理解バズ] 仲間の意見をまとめて学校紹介を作る。	
	全体発表	N.Y.のエミリーのクラスで自己紹介と泉中の学校生活の紹介しよう。	[理解バズ] 役割どおりに、仲間の前で堂々と発表する。	
	曜日の歌 WS(A)(B)	歌を通して一週間の曜日を覚えよう。		

### 実践例② 3年 Program 3

#### The Development of Computers

英語の学習においては、学年が進むにつれて能力差が大きくなる傾向がある。そのため、英語の学習に抵抗を持つ生徒も少なくない。英語を使うことに意欲が持てなかったり、使いたくてもどのように表現したらいいかわからなかったりする生徒も多い。そのため、普段の授業や学校活動の中心となる生活班での補強バズを学習指導計画の中に位置づけた。

表現がわからなかった生徒は、仲間の助言に支えられながら自分の表現を完成させる。自分の作品に自信がなかった生徒は、仲間に理解された。認めってもらったという自信を

持つ。自分の表現ができていた生徒は、仲間に教えることで身につけた力を確かなものにしていくことをねらいとした。

また、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいとして、理解バズを中心となるバズとして位置づけた。書きまとめた内容を、仲間と繰り返し交流することを通して、定着を図りたいと考えた。このバズは、できるだけ多くの仲間と交流することを目指して、学級内のバズ（スクランブル）の形式とした。

**単元指導計画 (全8時間)**

**単元の目標**

- 文章の構成に着目しながら、コンピュータの歴史について読み取ることができる。
- ◎読み取ったことについて、感想や意見を付け加えながら話したり、書きまとめたりすることができる。
- ・疑問詞＋不定詞の文、SVO Cの文の意味と用法がわかり、身近なことについて表現することができる。

**第1時**

疑問詞＋不定詞の文、SVO Cの文の意味と用法がわかり、身近なことについて表現することができる。

中心となるバス

◎理解バス

単元を貫く課題 コンピュータの発達について読み取ったことを交流しよう。

**第2時 題材の導入 §1本文**

ジョンが久美にコンピュータの発達について語ることになったいきさつを理解し、コンピュータの発達の歴史について読み取ろうとする意欲を持つことができる。

課題 What do Kumi and John talk about?

○補強バス

◎理解バス

**第3時 全体の導入 §2～4本文**

トピックセンテンスや「いつ」「誰が」「どのように」に着目して、コンピュータの発達の歴史や有効な利用法についての概要を読み取り、書きまとめることができる。

課題 Let's read the outline of the development of computers.

○補強バス

◎理解バス

**第4時 §2本文**

コンピュータの発達の第一歩となったパスカルの計算機について、教科書や資料の英文の要点を読み取り、書きまとめることができる。

課題 What was Pascal's calculating machine?

○補強バス

◎理解バス

**第5時 §3本文**

現代のコンピュータの発達と嶋さんの功績を読み取り、書きまとめることができる。

課題 How did the modern computers change? And let's talk about Mr.Shima?

○補強バス

◎理解バス

**第6時 §4本文**

現代のコンピュータの便利さと弱点を読み取り、自分なりの意見を書きまとめることができる。

課題 What are the strong points and weak points of the computers?

○補強バス

◎理解バス

**第7時 単元の発展 \*本時**

コンピュータの発達について読み取ったことを参考にして、これから自分はどうのようにコンピュータを使っていきたいのか書きまとめることができる。

課題 What do you want to do with computers?

○補強バス

◎理解バス

**第8時 単元のまとめ**

文章構成を工夫してコンピュータの発達について、自分なりに書きまとめることができる。

課題 Let's talk about the development of computers.

○補強バス

◎理解バス

3rd Class \_\_\_ No. \_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

### 単元を貫く課題

コンピュータの発達について読み取ったことを交流しよう。

### 課題

What do you want to do with computers?  
コンピュータを使ってどんなことをしたいか。

Step 1 コンピュータを使ってどんなことができるだろうか。

### Words bank

～したい: want to ~ / would like to ~ / would love to ~  
great 素晴らしい useful 役に立つ article 記事  
be interested in ~ ~に興味がある foreign countries 外国  
information 情報 how to ~ ~の仕方  
interesting おもしろい make friends with ~ ~と友達になる

#### 《バスの表現》

相手の言ったことがよくわからないとき

Say it again. Pardon me. I can't hear.

What do you mean? I'm sorry I didn't understand.

Will you speak more slowly?

相手の意見と同じとき

I think so, too. Me, too. That's right.

相手の意見と違うとき

I don't think so.

その他

Oh! I see. Really.



Step 2 Let's talk with your friends!

What do you want to do with computers?

**自分の考えを書こう**

\*理由もできるだけ具体的に書こう。

I want to \_\_\_\_\_ with computers.

Because \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

**仲間の考えを聞こう**

\*できるだけ原稿を見ないで話そう

A: What do you want to do with computers? Tell me about it?

B: Sure. I want to \_\_\_\_\_

Because \_\_\_\_\_

How about you, A?

A: \_\_\_\_\_

\*聞き取ったことをメモしよう

<b>自己評価</b>	相手の目を見て話すことができた	A	B	C
	相手の意見に英語で反応することができた	A	B	C
	相手に聞こえる声で話すことができた	A	B	C
	何人の仲間と話すことができましたか	人		
*評価 (A:しっかりできた B:意識したので少しはできた C:ほとんどできなかった)				

Step 6 まとめ コンピュータを使ってしたいことをまとめよう

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



**補強バズでの会話**      A: 班長

A: できた。聞いてよ。  
 Do you have any troubles in your writing? わからないところある?  
 G: No.  
 A: O.K. First, A, please.  
 B: I want to do e-mail. I want to make many friends. わかった?  
 A: I see.  
 D: make friends どういう意味?  
 B: 友達を作る。  
 D: そのまんまやん。  
 A: O.K? Next C, please.  
 C: I want to make games with computers.  
 Because I like games and I want to make my original game. O.K?  
 G: O.K.  
 A: Next, D please?  
 D: O.K. I want to draw pictures with computers. Because I like drawing pictures, draw のスペルがわからん。  
 A: わからないところあるやん。  
 D: (スペルに) 自信がないもの。  
 B: d-r-a-w わかった?  
 D: Thank you.

補強バズの中では、単語の意味や綴りを確認するだけでなく、構文を確認したり、文法的な誤りを互いに指摘したりすることができた。

また、その後の理解バズは学級内でのバズとしたが、生活班内でのバズに比べ自分の表現活動を交流する回数が増えるとともに、自分から相手を見つけて話そうとする積極的な姿勢が多く見られるようになってきた。

**(2)研究内容2**

必然性のあるバズ学習のあり方の究明

生徒の個性や願いが発揮できる課題や、インフォメーションギャップがあり、話してみたい聞いてみたいという意欲を喚起する課題を設定する。

**実践例① 2年生**

Program 3

Interesting Places and Things in Australia

この単元では教科書の題材をもとに、オーストラリアの紹介文を書くことを単元の目標とした。単位時間の流れは以下のようなものである。

内容理解 ⇒ 個人の書きまとめ

⇒ バズでの交流 ⇒ 紹介文の手直し

教科書から読み取れる情報に対して生徒一人一人がどう思ったのかを付け加えることとした。共通の情報を持って、そこから考えることは、各自違いがあり、それがインフォメーションギャップになると考えた。



課題: オーストラリアの道路標識についてまとめ、自分の意見を書いてみよう。

### 生徒の作品例

#### 《共通の話題》

There are many road signs in Australia.  
They mean, "Be careful of wild animals."  
Wild animals run out on the road.

#### 《生徒の考え》

- We mustn't drive fast and we must drive carefully.
- I like animals very much. So I don't drive a car in Australia.
- In Japan some boys run out on the road. So we must drive carefully, too.

はじめはどんなことを表現したらいいのかわからない生徒が多かったが、バスの中で交流していく中で、手直しする時間には、仲間の意見を参考にしながら自分なりの表現をしようとする生徒が多くなってきた。

### 実践例② 2年生

#### Program 8 A Cleanup Campaign

この単元では、教科書の内容について、あるトピックを設け、内容から読み取ったことや自分の考えをグループで話し合う活動をバスの活動として位置づけた。司会者(English Leader = EL)を中心に一人一人の意見やその意見に対する考えを英語で述べ、仲間とコミュニケーションしようとする態度を育てることをねらいとした。

本単元は前後半に分けられる。前半では、L.A.メープルパークの若者によるボランティア活動についての新聞記事が書かれている。後半では、ボランティア活動についてリポ-

トを書かなければならないサムが、クミのボランティア活動の経験について話を聴く様子が書かれている。どちらも「誰が」「何をした」「どう感じた」という事実から成り立っている。そこで、本単元では§1,2と§3,4それぞれに感想を含めた3つのトピックを設けバスを行った。

バス①②では、できるだけ教科書的事実に沿って話すよう、ただし感想はできるだけ自分の言葉を使うようにした。また、ワークシートには文を書くのではなく、キーワードとなる単語のみをメモし、話すときのヒントとした。

### バスの話題

#### バス① §1,2

What did young people do as volunteer work?

What did they feel?

What do you think of their volunteer work?

#### バス② §3,4

What did Kumi do as volunteer work?

What did she feel?

What do you think of her volunteer work?

#### まとめ まとめ

Did you ever do volunteer work?



### バズ①の様子(授業記録より)

EL: Let's start Buzz Talking!  
EL: What did you do volunteer work, M 子?  
略  
EL: What did they feel, T 男?  
略  
EL: What do you think of their volunteer work?  
A 子: I think the young people did a wonderful job.  
EL: Me, too. And I think they are nice people.  
T 男: They really touched me.  
A 子: I want to say, "Thank you." to young people.  
略  
EL: That's all. Thank you, everyone.

初めてのバズだったが、EL のリードでスムーズにすすめることができた。しかし、感想を話す場面では、自分の考えとではなく教科書からの抜き出しが目立った。授業後の生徒の反省にも、「感想はありきたりのことしか言えなかった。」とあった。

### バズ②の様子(授業記録より)

略  
EL: What do you think of her volunteer work?  
M 子: I think Kumi did a wonderful job.  
T 男: I think she is a very nice girl. Because I don't like clean up.  
EL: Yes, yes. Me, too. Cleanup is very very hard and めんどくさい。  
A 子: I like cleanup a little. It's very nice しい事。  
略

2 回目のバズでは、T 男くんが掃除嫌いの自分について話したことがきっかけで、他の

メンバーも自分の考えを話すようになった。Me, too や a little などの間違いや、日本語も少々あったが、教科書から離れ自分の意見を英語で話すことができるようになっていった。

### 実践例③ 3 年生 Program 3

#### The Development of computers

本單元では、文章の構成を考え、自分の考えとそれに至った理由を書きまとめることを学習の中心とした。題材を読み取った後、教科書内容に理由を求め、主に登場人物に対する考えを表現していくこととした。登場人物に対する考えが同じでも、そう考えた根拠が違っていたり、根拠が同じでも、考えが違っていたりする。このようなギャップが、コミュニケーションする意欲を高めていくと考えた。

ここで取り上げたのは、教科書題材を学習した後の発展的な活動として位置づけた授業の実践である。ここまでコンピュータの発達について学習し、主に登場人物についてさまざまな角度から考え、自分なりの考えを書きまとめてきた。題材の最後は、The value of computers depends on our creative use of it. という文で締めくくられている。つまり、コンピュータの価値は我々の使い方にかかっているということである。そこで、この時間では、生徒一人一人がこれからコンピュータを使ってどんなことをしていきたいかということについて書きまとめさせようと考えた。

これまでは自分の意見の根拠を教科書の文章から考えてきたが、本時では個人的な興味、関心が表現の基本となるので、今まで以上に仲間の考えに興味を持ち、積極的に活動できると考えた。



資料

本時の目標

コンピュータの発達について読み取ったことを参考にして、これから自分はどうのようにコンピュータを使っていきたいのか、根拠を明らかにして、2~3文で書きまとめることができる。

本時の展開

過程	学 習 活 動	教 師 の 指 導 , 援 助
復 習	<p>○絵を使って対話形式の質疑応答を行なう。</p> <p>We studied the development of computers.            …… The value of computers depends on our creative use of it.</p>	<p>○質問の答えは日本語・英単語を認めていく。</p> <p>・仕事を楽にしてきたこと、小さくなって汎用性が高まったことを押さえておく。</p>
課題の 生み出し	<p>学習課題</p> <p>What do you want to do with computers?            コンピュータを使ってどんなことがしたいか。</p>	<p>○真剣に聞く態度や、うなずきながら聞く態度を認めていく。</p>
課題の 追究	<p>○コンピュータを使ってできることをまとめる。</p> <p>・インターネット ・Eメール ・文章を書く(ワープロ)            ・絵を描く ・計算をする ・翻訳 ・ゲーム            ・洗濯 ・掃除 ・調理 ・音楽を演奏する など</p> <p>○コンピュータを使って自分がしたいことを、理由を明らかにしながらまとめる。</p> <p>I want to _____ with computers.            Because _____</p>	<p>・英語でも日本語でも認めていく。</p> <p>○板書にできることを英語で位置付け、表現活動のヒントとなるようにする。</p> <p>・コンピュータが制御して行なうことでもできると考える。</p>
学び合い	<p>○バス学習① 生活班での補強バス(輪番法)</p> <p>班員全員がそれぞれの考えを自信を持って発表できるようにしよう。</p> <p>○バス学習② 学級での理解バス(スクランブル法)</p> <p>できるだけたくさんの仲間と交流しよう。</p>	<p>○質問された単語は板書し、他の生徒の参考にもなるようにする。</p> <p>・文章の構成(結論→理由)を意識して書く。</p> <p>○バズで願う姿</p> <p>A: 仲間の助言で、自己表現ができる。            B: 自己表現が相手に伝わるか確認できる。            C: 仲間に助言できる。</p> <p>・バスの進め方は予め班長に指導しておく。</p>
まとめ	<p>○バス学習② 学級での理解バス(スクランブル法)</p> <p>できるだけたくさんの仲間と交流しよう。</p> <p>仲間の意見を参考にして、自分の意見をまとめる。</p> <p><b>期待する生徒の変容</b></p> <p>① I want to write letters in English with a computer. Because I have a pen pal in America. And I'm not good at writing English.</p> <p>② I want to talk with my pen pal with e-mail, too.</p>	<p>○自分の意見を積極的に話そうとしている生徒の態度を認める</p> <p>・聞き取ったことはメモを取るよう</p> <p>に指導する。</p> <p>・話した相手を記入する名簿を用意する。</p> <p>○自分の意見に対する聞き手の意見もできるだけ尋ねるようにする。</p> <p>○バズを通して意見が膨らんだ生徒の作品を紹介する。</p>

**課題**

What do you want to do with computers?

**生徒に与えたフレーム**

I want to \_\_\_\_\_ with computers.  
Because \_\_\_\_\_

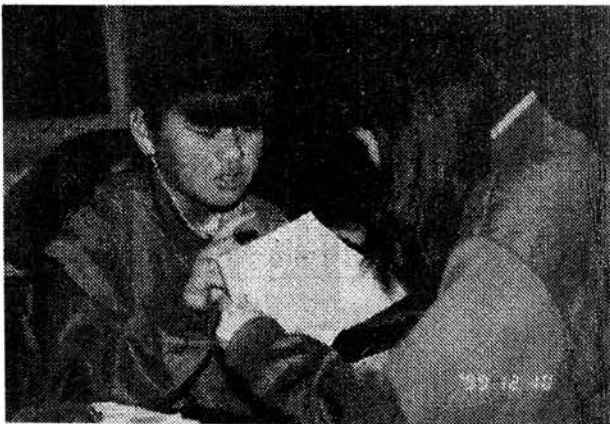
**生徒の作品**

I want to do e-mail and shopping.

I want to make a big company. Computers can do a lot of work very quickly.

I want to do e-mail and make many friends. I can get a lot of information very quickly.

体験や知識を生かしながら、生徒は自分なりの表現をしようと意欲的に取り組んでいた。2回目のバズでの交流では、それまでの授業より、多くの仲間と対話する生徒が見られた。



**(3)研究内容3**

バズ学習を支える学び方の確立

①バズを支える基本的な対話表現を身につけさせるために、クラスルームイングリッシュを意図的に使っていく。

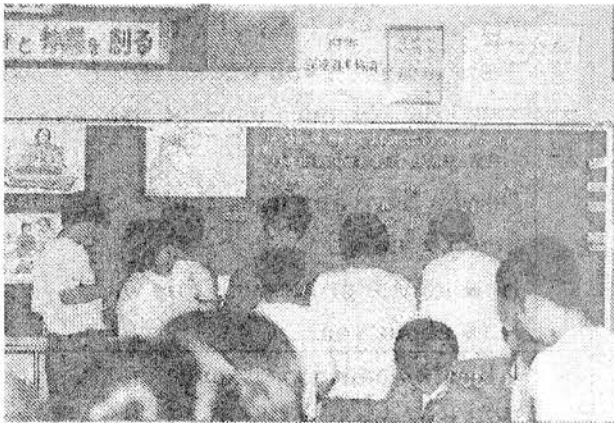
**実践例① クラスルームイングリッシュ**

の指導

学年当初に教科書を使って指導することの他に、以下のような表現を中心に毎時間の授業の中でクラスルームイングリッシュを使ってきた。

1 年	Look. Listen. Again. Pardon? Thank you. Please listen to me. Please read § 1. Start. Stop. Time is up. Do you understand? Yes, I do. No, once more please. Can you help me? Do you have any questions? Speak loudly. How do you pronounce this word? How about you?
2 年	I'll talk about~, Excuse me. Will you say it in English? Great. How wonderful! Take it easy. Much better. How do you say it in English? What do you think of ~? Start reading at line 1. I can't hear you. It means ~. O.K. Try it again, please. It's your turn.
3 年	I agree with~ san. Any advice? Please speak a little more slowly. Open your mouth a little more. ~ 's voice was clear. ~ 's pronunciation was good. I think you have to practice more. I'll tell you the outline of § 1 in English. I hope you'll be~.

できるだけ英語を使って指示を出すこととした。初めは意味がわからないので、英語で指示を出した後で、日本語で簡単に説明した。慣れてくるにしたがって、英語のみで理解できるようになってきた。また、簡単な表現は教師を真似て、バズの中で使おうとする生徒が増えてきた。



②フローチャートを使ってバズの基本的な進め方を指導していく。

**実践例②** 2年 Program 3  
Interesting Places and Things in Australia

バズの基本的な進め方を指導した。

- ① To make group. グループを作る。
- ② To select one person.  
代表を一人選ぶ。  
※ Chairman is the leader of group.  
司会は班長。
- ③ To show the work.  
代表は作品を見せる。
- ④ To ask the question.  
(作品を書くときにわからなかった表現について)  
仲間に質問する。  
例) 「『〇〇』と表現したいけど、英語ではどういふのだろうか？」  
To give advice.  
(質問されたことについて)  
アドバイスする。  
例) 「〇〇と表現したらどうだろうか。」
- ⑤ To ask the question.  
(わからなかった表現について)  
代表に質問する。  
例) 「この文章の意味がわからないけれど、どういう意味ですか。」  
To answer the question.  
(代表は)質問に答える。  
例) 「この文は〇〇の意味です。」
- ⑥ To point a good expression.  
良い表現を指摘する  
例) 「この表現がわかりやすくていいです。」

**実践例③** 3年生 Program 3  
The Development of computers

\*参考資料④ Useful Expressions In Buzz

司会がバズを進めていく場面で、英語での指示を具体的に指導することによって、バズでの話し合いを英語で行なおうとする雰囲気生まれしてきた。すべてを英語で行なうことはできなかったが、できるだけ英語で反応しようとする姿が多く見られた。

# Useful Expressions in Buzz

Program 3 New Version

## できるだけ英語を使ってバズを進めよう

司会の進め方 L: 司会

バズの目的① 一人ではわからない表現を仲間と考えよう

L: Do you have any troubles in your writing?  
自分の表現で困ったことはありますか。

Yes, I do.                      No, I don't.

L: What's that? それはなんですか。  
\*これ以後は日本語でOK (できれば英語で)  
\*Can you help him/her?

バズの目的② 自分の意見が仲間に伝わるか確認しよう

L: Let's talk about computer.

L: What do you want to do with computers, A?  
\*意見の発表

L: Do you understand? 意味がわかりましたか。

Yes, I do.                      No, I don't.

L: What's that?  
\*これ以後は日本語でOK (できれば英語で)

こんな表現をつかってみよう。

**バズで大切にしたいこと**  
\*わからないことは、どんどん聞いてみよう  
\*わかることは、どんどん教えあおう

### こんなときは、こう言おう

相手の言ったことがよくわからないとき

I can't understand what you said.  
Say it again.  
Pardon me.  
What do you mean?  
Will you speak more slowly?

Could you explain it again, please?  
I can't hear.  
I'm sorry I didn't understand.

相手の意見と同じとき

I think so, too.  
Me, too.  
That's right.

相手の意見と違うとき

I don't think so.

その他

Oh! I see. Really.



## 4 考察

### (1) 研究内容1

#### バズ学習を位置づけた指導計画の立案

理解バズや補強バズを中心にした指導計画を立案する。

単元を見通した学習計画を立案することで、バズを効果的に位置づけることができた。これにより、生徒は単位時間の流れをつかみ、見通しを持って学習に参加することができた。

また、バズを「理解」「補強」というものに焦点化することにより、バズの目的がシャープになった。これにより、理解バズでは仲間に支えられたり、励まされたりしながら、自分の表現に自信を持つことができた。補強バズでは、相手に伝わる喜びを実感できる生徒が増えてきた。

単元における中心となる活動内容をもっとはっきりさせることによって、より活発な活動を仕組むことができる。

### (2) 研究内容2

#### 必然性のあるバズ学習のあり方の究明

生徒の個性や願いが発揮できる課題や、インフォメーションギャップがあり、話してみたい聞いてみたいという意欲を喚起する課題を設定する。

生徒の願いや個性が発揮できる課題や、インフォメーションギャップがあり、生徒一人一人の話してみたい、聞いてみたいという課題を設定することは、意欲的にバズに参加し、できるだけ多くの仲間とコミュニケーションしようとする意欲を育成することに有効な手立てであることは明らかになってきた。

しかし、課題によっては表現内容が単調になり、意欲を高めることのできない生徒もいた。自己の体験や知識、考えた方が、更に発揮できる課題を追究していく必要がある。

### (3) 研究内容3

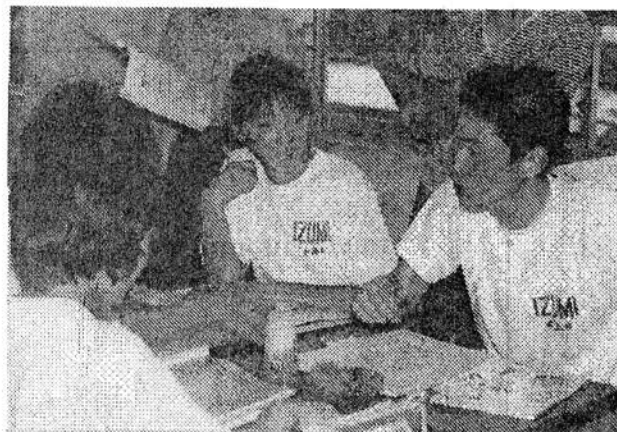
#### バズ学習を支える学び方の定着

①バズを支える基本的な対話表現を身につけさせるために、クラスルームイングリッシュを意図的に使っていく。

授業の中で教師が積極的に英語を通して指示することで、聞き手や話し手を意識した英語での基本的な応答を身につけさせたり、英語を使う雰囲気を作ったりしていくことができた。

②フローチャートを使ってバズの基本的な進め方を指導していく。

相手の発言内容に反応することや、自分の発表の確認をすることを、できるだけ英語で行なえるようにするために用いたバズの基本的な進め方のフローチャートは、有効な手段となった。これにより、バズの中でのうなずきや問い返しが多く見られるようになってきた。継続的に指導していく中で、スムーズにできるレベルまで高めていきたい。



## 5 成果と課題

○ねらいを明確にした理解バズ、補強バズを計画的に位置づけることによって、生徒の意欲を高めることができた。

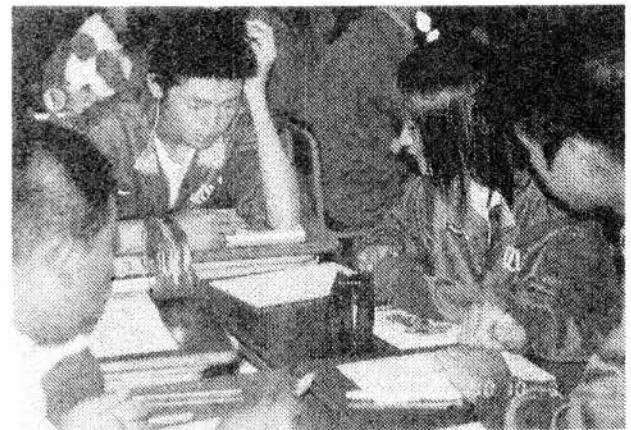
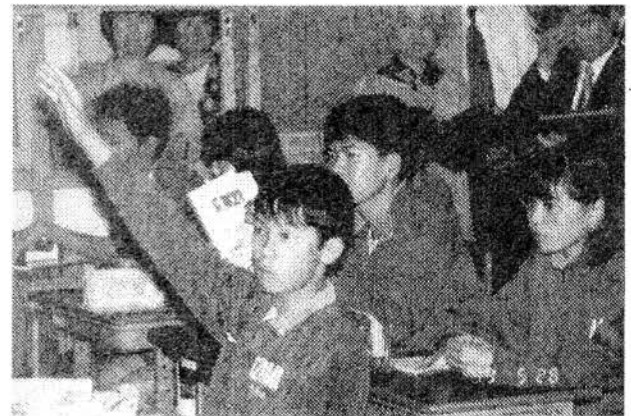
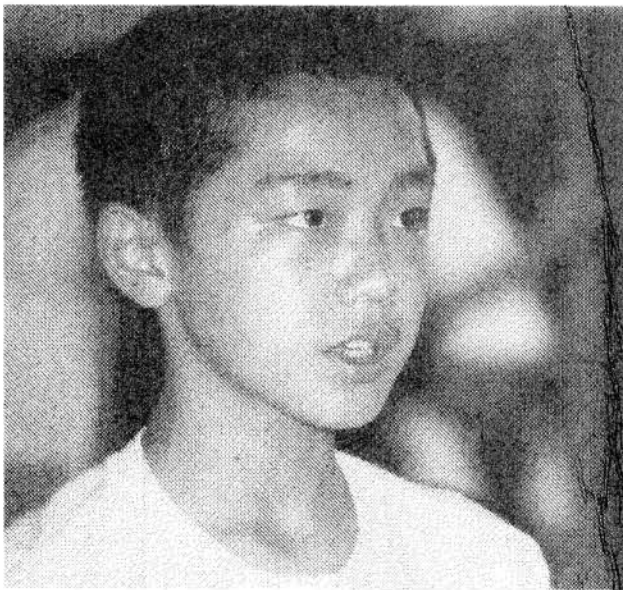
○生徒一人一人の話してみたい、聞いてみたいという課題を設定することは、意欲的にバズに参加し、できるだけ多くの仲間とコミュニケーションしようとする意欲を育成し、仲間関係を深めることに有効な手立てであることが明らかになった。

○授業の中で教師が積極的に英語を通して指示することで、バズの中で生徒が、聞き手や話し手を意識した英語での基本的な応答を身につけることができた。

○バズの基本的な進め方のフローチャートは、相手の発言に反応することや、自分の発表を確認するために有効な手段となった。

▲生徒一人一人のコミュニケーションしようとする意欲を高めるために、教科書の内容だけでなく、自己の体験や知識、考え方が発揮できる課題を更に追究していく必要がある。

▲生徒の意欲を更に高め、基礎・基本を身につけさせるために、他のバズ（発見バズ、探究バズ）をどのように活用していくか明らかにする必要がある。



# 研究の成果と課題



## 平成12年度の研究のまとめ

### <成果>

#### 1 研究主題「個と集団を鍛えるバズ学習の究明」

— 基礎・基本の確実な定着を目指して —

○小学校・中学校が、お互いの授業を交流し、小中学校を通して、バズ学習をどのように進めていけば良いのかを考え合うことができた。つまり、研究主題にそって、児童・生徒の力を高める研究を進めることができつつある。

#### 2 研究内容から

##### (1)研究内容1 「バズ学習を位置付けた指導計画の立案」

○バズ学習を位置付けた指導課程を意識し、その特性を考慮した指導計画を立案することができた。このことにより、児童・生徒の学習に対する課題意識の連続が図られ、より意欲的な学習ができるようになった。

##### (2)研究内容2 「必然性のあるバズ学習のあり方の究明」

○教師が、バズ学習を行うねらいを明確に持ち、学習意欲を喚起する学習課題の設定や「認知面」「態度面」を高めるためのバズテーマのあり方を明らかにすることができた。また、バズ学習中の教師の関わり方についても明らかになりつつある。このことにより、バズ学習を通じて、自らの意見や考えを広げたり深めたりすることができる児童・生徒が増えてきた。

##### (3)研究内容3 「バズ学習を支える学び方の定着」

○バズ学習を成立させるためのリーダー指導や話し合い活動を繰り返し指導することによって、自分の考えを意欲的に仲間に伝え、仲間の意見を積極的に取り入れる児童・生徒の姿が多く見られるようになってきた。

### <課題>

#### 1 研究主題「個と集団を鍛えるバズ学習の究明」

— 基礎・基本の確実な定着を目指して —

▲児童・生徒自らが、自己の成長を実感し、互いに認め合い、更に自己の持つ力を出し合い、互いに伸ばしていこうとする力を培っていくことが、より「個と集団を鍛える」ことにつながっていく。



## 2 研究内容から

### (1)研究内容1 「バス学習を位置付けた指導計画の立案」

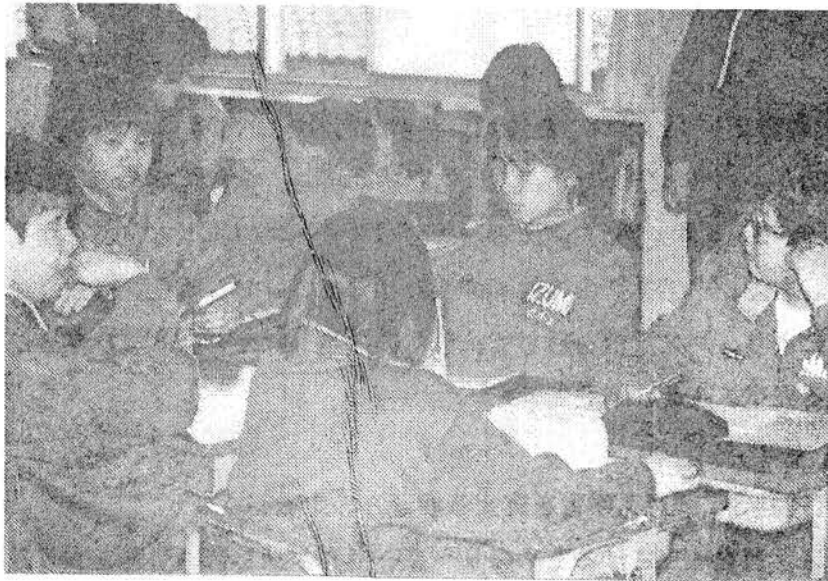
▲「自ら学ぶ力」を育てるために、バス学習を効果的に取り入れ、児童・生徒がより学習意欲を持つことができるような指導計画を、各教科で更に改善していく必要がある。

### (2)研究内容2 「必然性のあるバス学習のあり方の究明」

▲バス学習を通じて高めあったことをさらに自覚できるような、自己評価・相互評価を工夫していくことによって、生徒の学習意欲を更に継続させていく必要がある。

### (3)研究内容3 「バス学習を支える学び方の定着」

▲バス学習中の話し合いを含め、児童・生徒に、更に「協同」における自己責任を認識させる指導が必要である。



#### 平成12年度 泉中学校研究推進委員会

学校長	後藤東一	教頭	楓 正敏
教務主任	加藤一哉	委員長	仙石守一(第2学年 社会科)
委員	山内芳彦(第3学年 国語科)		
	林 幸寿(第3学年 社会科)		
	水野雅義(第1学年 理科)		
	小栗祥吾(第1学年 美術科)		

## おわりに

ここにまとめた『研究紀要』は、今年度の研究の歩みです。各教科の研究の成果と課題に限られた頁内に記述されているため、十分に研究の歩みを伝えられないかもしれません。また、今年度の研究はまだ途上にあります。従って、十分といえる内容になっていないかもしれませんが、是非ご一読していただき忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

泉中学校としては、昭和51年と平成元年に続いて3回目の『全国バズ学習研究大会』を行うこととなりました。学校ぐるみで40年間にわたりバズ学習に取り組んでいる本校に、是非発表をという声が高まり本日の発表を迎えました。本校では、一昨年の生徒の姿とは大きく変わり、温かい人間関係があちこちで見られるようになってきました。この良くなった生徒にさらに自信をつけさせていくためには、外部からの評価を頂く機会があればと願っていました。泉小学校では、夏休みに行われた岐阜県交通少年団自転車安全大会に初出場し、優勝し全国大会にも出場しました。一つの目標に向かって学校ぐるみで取り組みを行うことが出来るという、良い機運が盛り上がっていました。

こうした時期に、両校が研究発表できたことは大きな意義があると捉えています。泉小中学校がさらに発展していくためにまたとない機会を与えていただいたと感謝いたしております。そして、本日の研究大会で頂きました貴重なご意見ご指導を謙虚に受け止め、さらに研究実践に邁進していく所存です。今後ともご指導の程お願い申し上げます。

## 研究同人

### ◇土岐市立泉小学校

三宅敏弘	菅原由直	古川直利	齋木孝明
伊岐見文子	船澤利枝	永井明美	岩崎秀子
加藤直子	宮本雅江	丹羽ゆかり	水野秀信
村井知子	遠藤尚美	小栗敏子	岩井妙子
川口直子	西戸義正	松木真由美	後藤祐輔
有賀由紀子	古川裕之	中西梨奈	藤原誠
吉田雪絵	高橋恵美	渡邊慶彦	小島典子
平野孝雄	河合清香	島崎優子	山田陽子
長縄文子	浅野祐恵	伊東祥子	山口麻衣子
八木逸子	加藤美穂子	野村美智子	

### ◇土岐市立泉中学校

後藤東一	楓正敏	加藤一哉	鈴木米久
三宅裕一	安藤久子	古田柳子	菅原富江
岡崎哲郎	小池友幸	水野雅義	高橋文彦
小木曾謹也	橋本勇治	古田直之	山内芳彦
仙石守一	古川稔彦	田中靖治	揖斐賀浩
三輪薫	毛利知美	林幸寿	長瀬教行
土本高夫	後藤裕子	小栗祥吾	福当裕美
伊藤友子	奥村彰浩	高橋篤	小木曾尚子
玉川香	植田一弥	野口正史	山本貴子
水野久美子	遠藤淳子	林基憲	武田秀昭
安藤桂子			